



小城市立歴史資料館 ✿ 中林梧竹記念館だより

令和4年度中林梧竹記念館 第3期収蔵品展「花の書」開催中です

中林梧竹の名品を展示し、梧竹の書歴をたどります。
梧竹翁は小城出身で、明治から大正期にかけて書家として活躍し「書聖」と呼ばれています。

今回の収蔵品展は花をテーマに作品を展示しました。

- ◆期間 ~令和5年2月26日(日)
- ◆場所 中林梧竹記念館 常設展示室
- ◆観覧料 200円(大学生以下無料)



▲展示の様子

小城の歴史講座を開催しました

11月5日(土)に歴史資料館研修室で陶印の制作講座「陶印を作ろう」を開催しました。

参加者は自分の名前や好きな文字を掘り思い思いの印を作成されました。



▲講座の様子

おぎの歴史探検隊

幕末小城藩と帆船「大木丸」の物語〈その3〉

明治新政府により蝦夷が「北海道」と改称されると、開拓使の初代長官に旧佐賀藩主の鍋島直正が任命されました。佐賀藩は以前から北方の国防や産業振興に関わっていたのです。直正は島義勇を開拓使首席判官に就かせ、北海道の開拓に力をそそぎます。

そんな新天地での、海運・交易に乗り出したのが久富与平でした。与平は小城藩の「大木丸」購入に関わった人物で、有田焼の富商の家に生まれ、長崎を拠点に商売をしながら、英国人グラバーと高島炭鉱を開発するなどした、辣腕の実業家でした。

明治2(1869)年、与平は船長の内山栄三と共に大木丸に乗り、江戸から改称した東京へと向かいます。彼は東京と北海道と千島の間を航海し、海運や交易で大きな利益を上げようと考えたのです。

しかし翌、明治3(1870)年10月、不運にも大木丸は千島で台風のため難破し、氷の海を漂流すること半年あまり。与平は寒さのため病に倒れ、ついに明治4(1871)年6月21日、北海道の釧路厚岸海岸の船中で亡くなります。遺体は海中に投じるよう遺言したと伝えられますが、こうして与平と大木丸は最後に運命を共にしたのでした。(終)



▲久富与平の碑(有田町)

小城郷土史研究会／著

◆開館時間 9時~17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日・12月29日(木)~令和5年1月4日(水)・10日(火)
【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132

小城市ホームページから